

派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017 /2/1 ～ 2/28)

1. 勉学の状況

まだ学科が始まって 1 週間と少しといったところなので、まだ多くのことは言えませんが、やはり大学の講義のスタイルが日本のそれと大きく違うことに驚きました。より少人数で双方向型の講義となっていて、題材に対して頻繁に自分の意見を求められます。またマーケティングの講義ではいきなりグループでのプレゼンテーションが課されました。周りは当然すべて外国人なので、彼らと英語で議論して、協力し成果をまとめる過程で、自分の力不足を嫌というほど痛感します。

時間割の組み方も日本とは大きく異なり、一週間ほぼ毎日講義があり、2 ヶ月しない間に単位を習得することになっています。これはいいなと思いました。前回の内容を忘れることがないので、短期集中で講義内容を習得できそうです。また、ゼメスターのあいだに連休ができたりますので、その間に旅行に行く学生も多いようです。

いまのところ、すくなくとも自分には日本の大学のスタイルよりも、こちらの大学のスタイルのほうが性に合っているな。という感想を持ちました。本格的に勉強がはじまるのはこれからといったところですが、今週からはプログラミングの講義にも参加できるので、日本での講義とどう異なるのかいまから楽しみです。

2. 生活の状況

まず住環境は想像していたよりもずっと快適でした。すでにルームメイトが住んでいたのので、湯沸かし器やレンジが備わっており、キッチンには調理器具も一通り揃っていました。ただし、ちょっとしたものが備わっていなかったり、そもそも店にもおいていないということもあるので、普段使う器具は日本から持っていくといいと思います。僕の例だと、コーヒードリッパーというものはこの国に存在しないようでした。現地で買おうと思っていたのですが、みつからず、結局中国から取り寄せました。

僕は寮への到着からコースの開始までにだいぶ日があったので、他の留学生たちと仲良くする時間に恵まれました。すべてが英会話なので、楽しい集まりであっても、頭の中では必死に食らいついていかないとならず、友人たちと別れたあとは毎晩バタンキューでした。最初はみ

んなそうだった。2 ヶ月いればすぐ不自由なく喋れるようになるよと皆言いますが、ここに来てまだ英語の勉強は必要なように感じ、日々努力しています。

フィンランドでのインターネット環境は最高です。あらゆるところで wifi とコンセントが使えるので、（スイスのように）友人とはぐれて連絡がつかなくなるということはなさそうです。個室では有線 LAN が使えるので、5m 以上の LAN ケーブルを持参すると PC でのインターネット環境がより快適になると思います。また、スマートフォンも 100 ユーロで新品が買えます。僕はよく携帯を壊すので助かります。（到着から 2 週間で破壊してしまい、だいぶこまりました。）

友人のために生理痛の薬を探したのですが、薬は街に一つしか無い薬局にしかおいていないので、勝手がわからないと買うのは困難でした。また、いまだに洗顔料というものを見つけれられていません。そして乾燥がひどく、化粧水が欲しくても日本のようにはいかず……。いまはニベアクリームを使っています。

一番日本が恋しくなる瞬間は、学食でのランチを目の前にしたときです。1.9 ユーロで十分以上の量が食べられますが、味に関しては決して期待してはいけないといったところです。外食は驚くほど高く、殆どの人はスーパーで食材を買って自炊しているようです。炊飯器を持ち込んでいる人もよく見ますが、一緒に来た日本人の友人は鍋で器用にコメを炊いていました。近くにアジアストアもあるので、日本のものは味の素くらいしかおいていないので、醤油や日本米（に近いもの）が欲しい場合は郊外の大きなショッピングセンターにいかなくてはなりません。

洗濯機は予約が必要ですが、予約が一杯でなかなか使えない……といった状況には遭遇していません。見慣れたアリエールの洗剤も買えるので、洗濯には困らないと思います。服は H&M で安く買えそうですが、僕は日本でも体に合うサイズを探すのが難しいほうなので、服をもっと持ち込めばよかったと後悔しています。

今回 Bluetooth スピーカーを持ち込みました。無駄なものを持ってきてしまったなと思いましたが、ルームメイトがいつも大音量で謎の音楽を流して生活しているので、持ってきてよかったなと思います。ドアを閉めて自分の好きな曲を流せば快適にすごせます。

初めて海外に出て、日本の生活の便利さに気づきました。とくに、ちょっと気の利いた小物が海外にはなく、日本の生活用品は偉大だったのだなと思知らされました。日本から持ってきたものはすべて役に立っています。その逆に、海外で経験したことがすべて役に立っているとあとで言えるような留学生活を送りたいとおもいます。

派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017 / 3/1 ~ 3/31)

1. 勉学の状況

講義が始まり1ヶ月がたちました。生活にも慣れ、夜に友達と遊ぶことも増え、講義を欠席してしまうこともしばしば……。ですが、相変わらずプレゼンテーションなどのグループワークは多く求められるので、そこは仲間に迷惑をかけられないな……と、手が抜けません。日本では(少なくとも僕の学部では)ひたすら座学座学座学、テスト。だったので、日本でもこういった活動での評価の割合を増やせばモチベーションを高く保てるのにな……と思いました。もともと門外漢だったこともあり、ビジネスの勉強はなかなか難しいなと感じるこの頃です。

英語に関しては先日も友人に、この一ヶ月ですいぶん上達したよね! と言ってもらえたり、自分でも以前は言えなかったことが表現できるようになったなと感じる瞬間が増えました。ほんとうに半年ではなく一年ここに居れたらどんなにかよかっただろうかと思う日々です。そして、最近になって出身地ごとの英語のなまりの傾向が把握できるようになりました。ここには英米人はほぼ皆無なので、ネイティブ・スピーカーとの比較はできませんが、ドイツ人はとてもスタンダードな英語を話すように思います。聞き取る際に困難を感じることはありません。フランス人は、フランス語のような英語のようなやっぱりフランス語を話します(笑) 聞き取るのがとても難しい……。そして頑なにフランス語を使おうとします。ベルギー人のルームメイトは、たまに単語の発音がすこし違うくらいで、これもまたスタンダードな英語だなあと思っていたのですが、メッセージングでやり取りをするときの彼の英文法は崩壊しています(笑) want と won't の区別がありません。音だけで覚えているのでしょうか? 日本人とは対照的です。フィンランド人の英語は、語尾などにフィンランド語の雰囲気をもっていることが多いのですが、個人差がとても大きいように思います。ロシア人は、説明はしづらいのですが、ロシア特有のアクセントを持っているようで、ほかの友人も彼らの英語は聞き取りづらいといいます。ロシア人の友人のひとは以前日本語を勉強していたり、日本のアニメやアイドルが好きだったり、もっとうまくコミュニケーションをとれたらいいな思い、毎回必死で聞き取ろうと努力しています。台湾香港ベトナムなどアジア系の友人が多いのですが、彼らの英語のほうが、ドイツ人以外のヨーロッパ人の英語よりも、すくなくとも僕には聞き取りやすいです。とくに香港からの友人たちは間違いなく英語がうまいなあと感じます。ただ、彼らがイギリス英語を話しているなと実感することはあまりないです。日本人の英語はどう聞こえているのでしょうか? 平坦? 遅い? r と l, v と b は気をつけてはいるのですが……。

フィンランド語の勉強は・・・悪夢です（笑）

2. 生活の状況

前回、コーヒードリッパーが見つからないということを書きました。フィンランドでは、コーヒーマーカーで淹れるものようです。ハンドドリップの文化が無いのはかなしいなと思いました。そして、ドリッパーでコーヒを淹れる写真を FB に投稿したところ、ドイツ人からも、ハンドメイド？いいね！ぜひごちそうしてよ！と言われ、招待していろいろ話したのですが、ドイツでもやはりコーヒーマーカーで淹れることが一般的なようで、なんとも悲しい気持ちになりました。ドイツといえばザッセンハウスやメリタなどのコーヒ器具のメーカーが日本でも有名なので、丁寧にコーヒを淹れる文化があるだろうと思ったのですが・・・。

乾燥対策はニベアクリームが一般的なようです。ただ、アジア系の友人たちはそれぞれ自分たちで持ち込んだ化粧品を使っています。資生堂のクリームも見ました。こちらに来てすっかりサウナ好きになりました！週一くらいで寮に備わっているサウナを予約して利用しています。なんとなく以前よりも肌がよくなったなと思います。最近一度風邪をひいて2日寝込んだことがあります。寝ているだけでよくなりましたが、ポカリなどが見当たらないので、みんな風邪を引いたときはどうしているのかなと気になります。サマータイムに突入しました。時間の感覚が狂います。pm8 でも外が明るいので、どうしても気づかぬうちに夜ふかししてしまうようになって悩んでいます。ただでさえ朝に弱いのに・・・。

以前ネパール人のルームメイトが大音量で音楽を流してうるさいと言うようなことを書いたのですが、最近はそれ以上に、トイレと洗面所で、彼が一日に何度もすごい音を立てて痰を吐くのがたまらなく嫌です。体質的なものなのか習慣的なものなのか、いずれにせよ、僕としてはそういう音を聞きたくないです。Google 先生に聞いたところ、インドなどでは路上でそうやって音を立てて痰を吐くのが一般的であるということを知りました。きっと彼の出身国でも、そういう行動は許容されることなのでしょうが・・・。ところかまわず吐かないだけましなのでしょうが？また、不定期で彼のネパール人の友人何人かが代わる代わる彼の部屋に泊まっているようなのですが、彼らは食器を使っても絶対に洗ったりかたづけたりしないし、冷蔵庫になにやら突っ込んでそのまま放置するなど、信じがたいことを平気でして帰ります。いちど風呂場でバリカンで髪を切ってそのまま・・・ということもありました。そういった後始末は半分程度は彼がやるのですが、なぜか残りは我々がやる羽目になります。彼はゴミの分別もしません。トイレも汚すだけ汚して決して掃除はしません。（僕が来るまでこの部屋にはトイレの洗剤はありませんでした）文化によって求められる清潔さの度合いが異なるのは理解できますが・・・それでも嫌なものは嫌です。近年在日ネパール人が増えているということも聞きますが、正直にいうと、ここでの嫌な経験から、彼らには日本に住んでほしくないなあと感じ

てしまいます。差別感情というのはこうやって醸成されてしまうのだろうか、異文化交流の難しさを体感しています。

派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017 / 4/1 ~ 4/30)

1. 勉学の状況

4月が終わったことで、フィンランドに来てまるまる3ヶ月を過ごしたことになります。時の流れの早さを感じます。時間の流れの早さは、毎回のホームワークのデッドライン間近にも感じます(笑)やはり課題の量が多いです。その代わりなのか、テストはかんたんで拍子抜けしました。期末テストのようなものを受けたのですが、非常にかんたんなものでした。そのコースだけなのかはわかりませんが、やはり重点はホームワークやグループワークに置かれているようです。

Internatinal Marketing Management and Research と **Cross-Cultural Marketing Management** という2つの大きなコースのホームワーク、グループワークをやりきり、なんとかメインのコースは達成できたなと思っています。オンラインでのビジネスシュミレーターを使ったコンテストや、テーマを定めたロールプレイのビデオ制作などを、英語で仲間とコミュニケーションをとりながら行うので、ひとりで試験勉強をするよりもずっとハードに感じました。5月に始まるコースも少しだけありますが、4月でフィンランドでのビジネスの勉強は一山を超えたかなと思っています。

僕はわずか1ゼメスターだけの交換留学生ですが、この大学に通うフルタイムの学生がとてもうらやましく感じました。彼らには僕達よりもはるかに多くの選択肢があるように見えるからです。また、文系の勉強を続ける中で、やはり化学などの理系学問への未練が、自分のなかでふつつつと煮えていることを感じてしまいました。日本へ帰るまでの旅の間に、なにかしら大きな決断をしなければならないのかもしれないかもしれません。

2. 生活の状況

白夜を見ました。いや、白夜とっていいのか……。昼のように明るいわけではないのですが、12時をすぎても日が沈まず、夕暮れのような時間が延々と続く、フィンランドの春を体験しました。仲間と湖畔のコテージを二晩貸し切った時のことです。そこでは森と湖とサウナをみなで楽しみ、夜通し語り合いました。きっと同じ面子でこうして過ごすことは二度と無いのでしょう。5月になりました。フィンランドにも、友達にも、お別れをするときがやってきました。僕も5月半ばから旅行を計画していますが、セイナヨキでの生活が終わってしまうことを考えると、とても悲しくなります。もちろんすべてが理想的な留学生活……とは行きませんが、狭いならば狭いなりに。金がないな

らば無いなりに。汚いならば汚いなりに。楽しみ、充実した毎日を送れました。そして時間がないならば無いなりに、残り少ないここでの時間を有意義に使おうと思います。